

## 震災がつなぐ全国ネットワーク会員のみなさまへ コロナ禍における災害支援について

ボランティアやNPO等の活動は、本来、自らの自由な意思で行われるものです。一方で、コロナ禍における活動は、感染拡大防止のために様々な制約が伴うことは止むを得ません。これをどう両立させるかは、災害支援においても重要な課題となっています。

震つなとしては、災害時には「すぐに行く」「そばにいる」「長くいる」といったこれまでの精神は貫きつつ、一方で、その時々々の社会情勢に応じながら、支援する側と受ける側それぞれの考えが尊重され、互いに納得した支援となるよう、以下の点を相互に確認しておきましょう。

- 現地入りについては各団体の判断を原則としつつ、被災地の行政・社協（災害ボランティアセンター）・地元NPO等とよく話し合しましょう。
- 現地入りする支援者は、その時点で感染者でないことに安心いただくため、災害前からの体調管理（必要に応じPCR検査の実施）や行動履歴をとるようにしましょう。
- 現地では、感染拡大防止策を徹底した上で活動しましょう。
- 万が一、感染または感染疑い等が発生した場合は、現地の保健所等の指示に従い、適切に対応しましょう。

2020年12月6日

震災がつなぐ全国ネットワーク

震つなでは、各団体の活動に対する支援を行います！

これまでの経験知やノウハウを提供し合うなど、ネットワークを生かした活動をともに創造していきましょう。

- 現地入りのみならず、コロナ禍においては、遠隔からの支援や、また、一団体では難しいが、他団体との協働なら実施できそうな支援もあると思います。まずはお気軽に事務局にご相談ください。
- ※ これまでの支援の例／交通費や宿泊費等の補助、避難所運営支援や家屋等への技術系支援、家の相談会などの開催経費など
- ※ 現地入りする際はぜひ震つな事務局にご一報ください。
- 「水害にあったときに」や「災害関連死防止ポスター」などのグッズ活用も可能です。
- ネットワークでの連携を活発にする為にも各団体がどの媒体（フェイスブック・ブログなど）で被災地支援の情報発信をしているか震つなメーリングリストでお知らせください。
- なお、ご承知の通り、2016年熊本地震以降、被災地の中間支援組織等により、「情報共有会議」が開催されています。震つなとしても、こうした場に積極的に参加し、被災地全体の支援につながるよう、協力していきましょう。